

CSR REPORT

2013

[SUMMARY]



経営に関する基本的な考え方

社是

敬天愛人

敬天愛人

常に公明正大 謙虚な心で 仕事にあたり
天を敬い 人を愛し 仕事を愛し 会社を愛し 国を愛する心

経営理念

全従業員の物心両面の幸福を追求すると同時に、
人類、社会の進歩発展に貢献すること。

経営思想

社会との共生。世界との共生。自然との共生。
共に生きる (LIVING TOGETHER) ことを
すべての企業活動の基本に置き、豊かな調和をめざす。

京セラフィロソフィをベースにした企業経営

京セラドキュメントソリューションズは、京セラグループの経営理念を実現するため、経営の原点である「京セラフィロソフィ」をベースに経営をしています。

京セラフィロソフィは、京セラグループ創業者である稲盛和夫の実体験や経験に基づいた企業哲学であり、「人間として何が正しいか」を判断基準として、公明正大な経営、業務運営を行っていくことの重要性を説いています。

社員が、自ら積極的に京セラフィロソフィを理解し、企業人として高い良識のある行動を実践していくために「京セラフィロソフィ手帳」「京セラ行動指針手帳」を作成し全社員に配布しています。

また、経営においては、京セラフィロソフィをベースとした「アメーバ経営」と「京セラ会計学」を両輪として経営の根幹としています。

京セラフィロソフィ手帳



京セラグループでは、全社員に「京セラフィロソフィ手帳」を配付しています。また、2011年4月には、「京セラフィロソフィ手帳II」を発行するとともに海外の各拠点における京セラフィロソフィの浸透をはかるため手帳の多言語化に取り組んでいます。



WEBは
コチラ！

「京セラドキュメントソリューションズ
の経営理念」

検索

編集方針

「CSR報告書2013」について

「CSR REPORT 2013」(SUMMARY)は京セラドキュメントソリューションズが取り組むCSR活動についてステークホルダーの皆様へ報告し、ご理解をいただくことを目的として発行しています。本報告書は、ステークホルダーの皆様ごとに重要性の高いものをサマリーとして編集しています。より詳しい情報は、WEBサイトに掲載しています。
<http://www.kyoceradocumentsolutions.co.jp/company/csr/index.html>

対象期間

2012年度(2012年4月1日～2013年3月31日)を中心に、一部過去からの取り組みや直近の活動についても記載しています。

発行日

2013年11月

制作

京セラドキュメントソリューションズ株式会社 CSR本部

会社概要

社名

京セラドキュメントソリューションズ株式会社
英文社名: KYOCERA Document Solutions Inc.

本社

〒540-8585
大阪市中央区玉造1丁目2番28号
TEL 06-6764-3555 (大代表)

代表者名

代表取締役社長 駒口 克己

創立

1934年11月

設立

1948年7月: 三田工業株式会社
2000年1月: 京セラミタ株式会社へ社名変更
2012年4月: 京セラドキュメントソリューションズ株式会社へ社名変更

資本金

120億円(京セラ(株)100%)

年商

2,505億円(連結売上: 2013年3月期実績)

従業員数

15,983名(全体 2013年3月末現在)

事業内容

モノクロおよびカラーのプリンター、複合機、広幅複合機、ドキュメントソリューション、アプリケーションソフトウェアおよびサプライ製品の製造・販売

関連子会社

国内: 販売会社1社
海外: 販売会社数28社、生産会社2社、物流会社1社、開発会社2社
その他関連会社: 34社
(2013年3月末現在)

* 資本金、年商の記載金額は億円未満を四捨五入しています。

INDEX

経営に関する基本的な考え方	2
会社概要	3
トップコミットメント	4
京セラドキュメントソリューションズのCSR	6
コンプライアンス/リスクマネジメント	8
事業概要	10

【特集】品質向上への改革

従来の概念を覆す品質管理への取り組みが プロフェッショナルな製品やサービスを生む	12
よりよい製品を市場に送り出すために	14
市場情報をもっと生かすために	15

お客様とともに

品質保証の方針	16
使いやすい製品・人にやさしい製品	17
お客様満足度向上への取り組み	18
購買活動の基本的な考え方	18

環境保護への取り組み

京セラドキュメントソリューションズの環境経営	20
温暖化対策・省エネルギー活動	22
エコシスコンセプトに基づくものづくり	23
環境配慮設計	23
LCAの取り組み	24
化学物質管理の取り組み	25
省資源・資源循環への取り組み	26
エコロジスティクスの推進	27
生態系保護の活動	27

社会とともに

京セラドキュメントソリューションズの社会貢献活動	28
社会貢献活動への想い	29

社員とともに

人事の基本的な考え方	32
社員教育の強化	34
福利厚生への取り組み	34
労働安全衛生の取り組み	35

お客様それぞれに最適な ドキュメントソリューションを 提供してまいります

私たちを取りまく情報化社会は、モバイル情報機器やクラウドコンピューティングなどの普及で進化発展を遂げています。ドキュメント業務においても場所や時間に関係なく行いたいというニーズが高まっており、ドキュメント機器に対するニーズも多様化しています。

私たちが果たすべき役割は、お客様の求められるドキュメント環境の課題に対して最適なソリューションをスピーディーに提供し続けることにあると考えております。



お客様のビジネスに 新しい価値をもたらし、 信頼される企業を目指します

私たちは、長年培ってきた長寿命技術を搭載した環境にやさしいプリンター・複合機と豊富なソフトウェア技術によって、お客様のドキュメントワークに環境性と経済性という価値を提供するため、世界31カ国に直轄の販売拠点を持ち140カ国以上で事業活動を展開しています。

近年は、機器の販売と保守のみならずソリューションサービスのビジネスも積極的に展開しています。そうした中、いかにしてビジネスの生産性向上とコスト削減を両立させるかは、多くのお客様が抱える大きな課題であると感じています。私たちは、これまでにグローバル市場で培った豊富な経験とノウハウを活かし、お客様のドキュメント環境を調査・分析し、最適な機器配置のご提案、構築、運用管理、導入後の最適化を継続させる、マネージド ドキュメント サービス(MDS)を提供しています。これにより、紙やトナーの使用量削減だけでなく、機器管理にかかる時間の低減と業務効率の改善といった効果をもたらします。

これからもドキュメントワークの課題解決能力を高め、お客様のパートナーとして信頼される企業を目指してまいります。

《共に生きる》 グローバルでCSR活動を 推進します

私たちは、京セラグループの一員として、「社会との共生・世界との共生・自然との共生。共に生きる(LIVING TOGETHER)」をすべての企業活動の基本に置き、人と社会と共に歩む企業グループであり続けたいと願い活動を展開しています。

例えば、中国では公立の中等専門学校に「京セラクラス」を開設し、職業訓練だけではなく、社会に貢献する社会人の育成を目的に、社会人としての心構えを学生たちに教えています。また、ベトナム工場には製造機能に加え研究開発機能を備え、現地で技術者をめざして集まってくる若者たちに、製品開発に必要な高い技術スキルを提供しています。私たちはその国の将来を担う若者たちに希望をあたえ、夢の実現に向けて彼らと共に取り組むことがその国、その地域の発展につながると信じています。

このように、それぞれの国や地域で育まれてきた歴史・文化・慣習・法令などを尊重しつつ、企業活動を通してその国、その地域の発展に寄与する、〈共に生きる〉ことが、社会の公器としての企業のあり方であると私たちは考えています。

そのことを実現するためにも、透明性の高い経営、公明正大な企業活動の徹底はもちろんのこと、地域社会、従業員と一体となって社会貢献に取り組み、より一層CSR活動の充実・推進に努めてまいります。

2013年度のCSR活動報告を通じて、京セラドキュメントソリューションズの活動にご理解をいただきますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 駒口 克己

京セラドキュメントソリューションズのCSR

京セラドキュメントソリューションズは、「敬天愛人」を社是に、「全従業員の物心両面の幸福を追求するとともに、人類、社会の進歩発展に貢献する」ことを、経営の根幹としてCSR経営を進めています。

●● CSR経営とは京セラフィロソフィの実践そのものです

当社グループのCSR経営は、経営の根幹である「京セラフィロソフィ」の実践そのものです。より良い製品・サービスの提供や、環境保全、社会貢献等を通して社会の要求に

対応することで、ステークホルダーとの相互信頼を構築、持続できるよう、透明性の高い企業経営を行い、社会とともに発展していくことを考えています。

CSRの概念図



●● 国連グローバルコンパクトに参加しています

京セラグループは、人権・労働・環境・腐敗防止についての10原則を定めた、国連グローバル・コンパクトの主旨に賛同し、参加しています。



… コーポレート・ガバナンス

コーポレート・ガバナンスの体制

当社は、京セラグループの一員として、京セラフィロソフィをベースに、公平、公正かつ透明性の高いコーポレート・ガバナンスの実現に努め、取締役の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するためコーポレート・ガバナンス体制を定めています。

コーポレート・ガバナンスの機関

当社は、コーポレート・ガバナンスの機関として、監査役、および監査役会を設置しています。各取締役は、監査役または監査役会からの報告の要求に応えるとともに、法令、定款違反および当社グループに著しい損害を及ぼす事実やその可能性を発見した場合には、直ちに監査役会に報告します。また、監査役の監査が実効的に行われることを確保するため、その要求に応えます。

内部統制の体制

経営理念の実現に向けて、経営方針およびマスタープランを公正に達成するため、内部統制の体制を整備しています。

京セラドキュメントソリューションズ経営委員会

当社グループにおける業務の適正を確保するため、重要事項は取締役および当該事項に関連する執行役員で構成される経営委員会で審議されます。

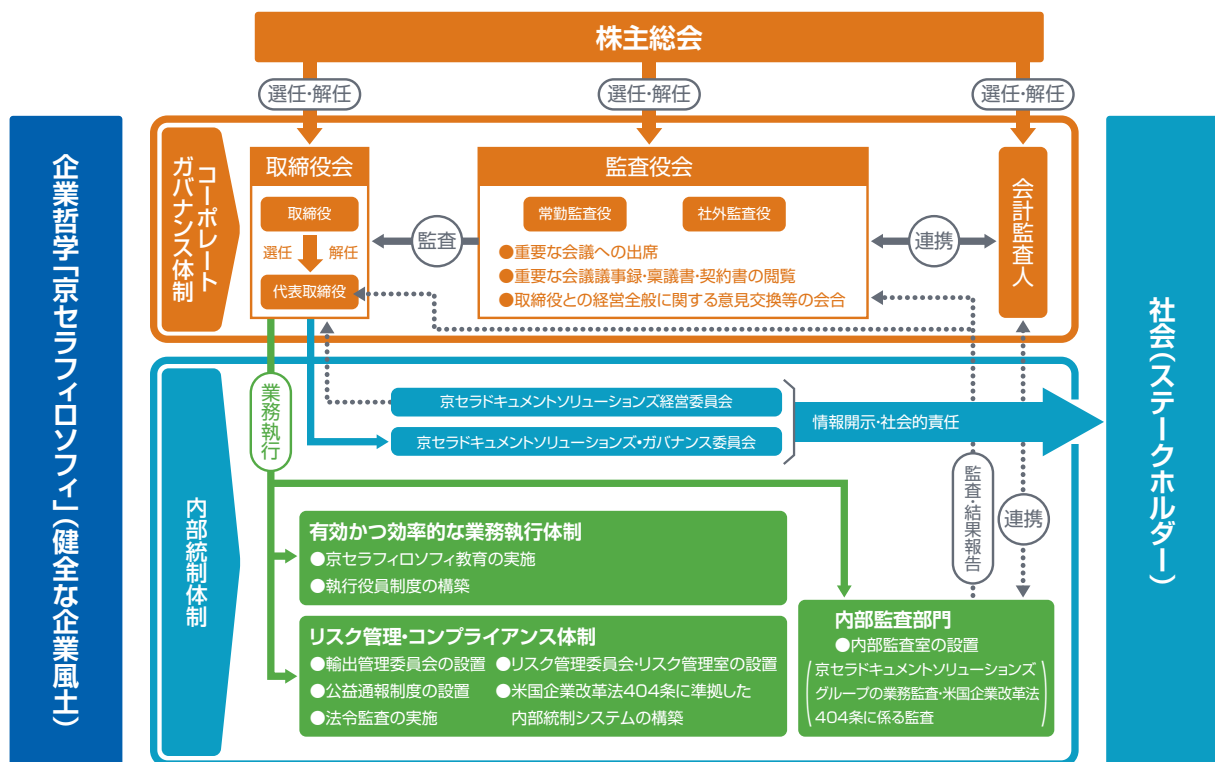
ガバナンス委員会

万一、当社グループ内で不正・不祥事等が発生、発見された場合、ただちに取締役および当該事項に関連する部門の執行役員等で構成されるガバナンス委員会が設置され、正確な状況の把握を行うとともに是正策を検討し、迅速な処置を指示します。

執行役員制度

執行役員制度による権限の委譲と責任体制の明確化を図り、有効かつ効率的な業務遂行を実現するとともに、取締役会に業務執行状況の報告を行います。

コーポレート・ガバナンスの体制図



京セラドキュメントソリューションズのCSR



コンプライアンス/リスクマネジメント

京セラドキュメントソリューションズでは、多様化する社内外のリスクに対応するため、リスク管理体制を整備し、リスクの予知や予防対策、情報セキュリティ対策を推進しています。

… コンプライアンスの推進

当社は、京セラフィロソフィの「人間として何が正しいか」をものごとの判断基準に置き、これを最も基本的な行動規範として全社員が共有しています。さらに京セラフィロソ

フィに基づく「京セラ行動指針」をコンプライアンスの基本としています。

コンプライアンス体制

当社では、各部門長・事業所長、および各組織で選任されたリスク管理委員および担当者により、法令の周知徹底やリスクの予知と予防を行い、コンプライアンス体制を構築しています。

コンプライアンス教育

コンプライアンス強化の一環として、階層別、法令別にコンプライアンス教育を実施しています。毎年、新入社員に対するコンプライアンス教育、各部署では担当法令に対する教育を実施しています。

法改正の告知と対応

法令調査部門は法令順守を徹底するため、新規法令の施行時や法令改正時には、各関連部門へ法令情報を告知するとともに、法令監査部門は定期的に各部門の法令順守状況を監査しコンプライアンス体制の徹底をはかっています。

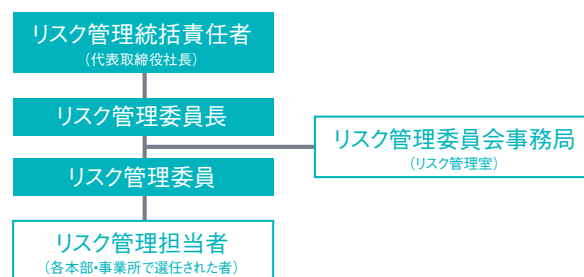
反社会勢力排除への取り組み

当社は、社員が日々業務を行う上で行動の規範とする「京セラ行動指針」において、反社会勢力に対し「法に基づいて毅然たる態度で解決をはかる」と明記し徹底をはかっています。また、お取引先や協力会社との取引においても、その契約書に反社会勢力の排除条項を設けることとしています。

… リスクマネジメントの体制

リスク管理統括責任者である社長のもと、各部門長・事業所長によるリスク管理委員と各組織で選任されたリスク管理担当者、およびリスク管理事務局で構成されるリスク管理委員会により、リスク管理体制を構築しています。緊急事態発生時の対策と被害の最小化を目的とする危機管理マニュアル等の社内規程を整備し、全社員に公開しています。

リスク管理体制図



… 情報セキュリティマネジメント

巨大化する情報化社会において、技術情報や個人情報等、情報に関するリスクマネジメントを重要課題と認識し、社長を委員長とする「情報セキュリティ委員会」を設置しています。「情報セキュリティ基本方針」「個人情報保護基本方針」を制定して、情報の取り扱いに関して管理を徹底

するため、全社員に対してeラーニング等による情報セキュリティ教育を実施しています。

例えば、お客様の大切な個人情報をお預かりする京セラドキュメントソリューションズジャパンでは、全社員に「個人情報保護教育コース」の受講を義務付けています。

● 知的財産の保護

当社は、研究開発による成果を知的財産権として積極的に取得することで、自社製品と自社技術の保護を図っています。

特に、「環境関連の発明発掘」および「偽造品に対する取り組み」について力を入れて活動しています。

環境関連の発明発掘

当社独自のエコシスコンセプトに基づき、環境関連テーマとしてエコロジー&エコノミーを重視した長寿命化技術、省エネや製品稼働音の静音化などの環境配慮技術について、製品開発で検討された技術やアイデアを積極的に発明

発掘しています。こうした取り組みは、ユーザーの利便性を追求するだけでなく、環境負荷低減のものづくりを求める会社の動きに適應した知的財産活動と考えています。

偽造品に対する取り組み

近年、世界各地で偽造品のトナーコンテナの流通が確認され、これらの使用に起因する製品本体の故障事例も報告されています。このような偽造品を製造・販売する行為は、当社を信頼して製品を購入して下さったお客様に多大のご迷惑をおかけするものであり、また、当社の知的財産権を侵害する違法な行為でもあります。当社では、偽造品の被害からお客様を守り、安心して製品をお使いいただけるよう、偽造品の撲滅へ向けて世界各国でさまざまな取り組みを進めています。



摘発された偽造品

偽造品販売業者への警告

偽造品を販売する業者に対し警告を行い、今後は偽造品を取り扱わない旨の誓約を求めるとともに、在庫品の破棄、仕入先の開示などを要請し、偽造品流通の拡大を防止しています。

税関水際取締制度の活用

各国の税関に対して、偽造品の輸入・輸出の水際での差し止めを要請しています。
また、取り締まりの効率を上げるために、税関職員を対象に当社トナーコンテナの真贋判定方法を説明する取り組みも行っています。

真贋判定用ホログラムシールの採用

トナーコンテナ製品に真贋判定用ホログラムシールを貼り付け、純正品と偽造品を見分けやすくする工夫を施しています。



ラベルを貼った製品

拡大写真



WEBは
コチラ！

コンプライアンス/
リスクマネジメント

検索

研究開発・調達・製造・販売・サポートの サイクルを通して世界に信頼の輪を広げています

京セラドキュメントソリューションズは、独自の長寿命化技術「エコシスコンセプト」から生み出されるプリンターや複合機のメーカーとして、世界3カ国に研究開発拠点を設け、31カ国に直轄の販売網をもち、140カ国以上の国々で事業活動を展開しています。

アメリカ統括地域

<販売会社・支店>

京セラドキュメントソリューションズ アメリカ本社
 ニュージャージー支店
 イリノイ支店
 カリフォルニア支店
 ジョージア支店
 テキサス支店
 京セラドキュメントソリューションズ カナダ
 京セラドキュメントソリューションズ メキシコ
 京セラドキュメントソリューションズ ブラジル

ヨーロッパ統括地域

<販売会社・支店>

京セラドキュメントソリューションズ ヨーロッパ本社(オランダ)
 京セラドキュメントソリューションズ ヨーロッパ スイス支店
 京セラドキュメントソリューションズ 中東支店(UAE)
 京セラドキュメントソリューションズ ドイツ
 京セラドキュメントソリューションズ イギリス
 京セラドキュメントソリューションズ フランス
 京セラドキュメントソリューションズ イタリア
 京セラドキュメントソリューションズ オランダ
 京セラドキュメントソリューションズ ベルギー
 京セラドキュメントソリューションズ スペイン
 京セラドキュメントソリューションズ ポルトガル
 京セラドキュメントソリューションズ オーストリア
 京セラドキュメントソリューションズ ロシア
 京セラドキュメントソリューションズ 南アフリカ
 京セラドキュメントソリューションズ ノルディック(スウェーデン)
 京セラドキュメントソリューションズ ノルディック ノルウェー支店
 京セラドキュメントソリューションズ デンマーク
 京セラドキュメントソリューションズ フィンランド



京セラドキュメントソリューションズ
デベロップメント アメリカ
(サンフランシスコ)



アメリカ 統括本社

生産・物流拠点

中国

京セラドキュメントテクノロジー 石龍工場(中国)

事業所名:京セラ弁公設備科技(東莞)有限公司
 所在地:中国広東省東莞市石龍鎮方正東路3号
 従業員数:6,140名(2013年10月現在)
 主な生産品目:複合機、プリンター、感光体ドラム



ベトナム

京セラドキュメントテクノロジー ベトナム工場

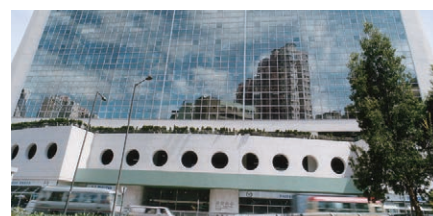
事業書名:京セラドキュメントテクノロジー ベトナム
 所在地:ベトナム国ハイフォン市VSIPハイフォン工業団地内
 従業員数:666名(2013年10月現在)
 主な生産品目:複合機、プリンター



香港

京セラドキュメントテクノロジー 香港物流

事業所名:京瓷辦公設備科技(香港)有限公司
 所在地:香港荃灣青山道552-566號 美達中心13樓
 従業員数:140名(2013年10月現在)
 主な業務:製品出荷およびサービスパーツの調達、出荷、
 生産用部品の調達





ヨーロッパ統括本社 (オランダ)



本社及びR&Dセンター (大阪)



アジア 統括本社 (香港)



東京R&Dセンター (東京) 及び
京セラドキュメントソリューションズ
ジャパン本社

アジア統括地域

<販売会社>

京セラドキュメントソリューションズ アジア本社 (香港)
京セラドキュメントソリューションズ 中国
京セラドキュメントソリューションズ 韓国
京セラドキュメントソリューションズ 香港
京セラドキュメントソリューションズ 台湾
京セラドキュメントソリューションズ タイ
京セラドキュメントソリューションズ シンガポール
京セラドキュメントソリューションズ インド

日本統括地域

<事業所>

京セラドキュメントソリューションズ 本社 (大阪)

<販売会社>

京セラドキュメントソリューションズ ジャパン
京セラドキュメントソリューションズ オーストラリア
京セラドキュメントソリューションズ ニュージーランド

グループ会社

TAトライアンフアドラーグループ (ドイツ)

研究開発拠点

京セラドキュメントソリューションズ 本社R&Dセンター (大阪)
京セラドキュメントソリューションズ 東京R&Dセンター (東京)
京セラドキュメントソリューションズ デベロップメント アメリカ
(サンフランシスコ・ロサンゼルス)
京セラドキュメントソリューションズ デベロップメント フィリピン

日本

京セラドキュメントソリューションズ 玉城工場 (三重)

所在地: 三重県度会郡玉城町野篠字又兵衛704-19
従業員数: 281名 (2013年10月現在)

主な生産品目: 消耗品 (カラートナー、モノクロトナー)



京セラドキュメントソリューションズ 枚方工場 (大阪)

所在地: 大阪府枚方市津田北町1-38-12
従業員数: 232名 (2013年10月現在)

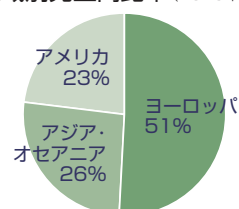
主な生産品目: 米国連邦政府調達機器 (プリンター、複合機)、消耗品 (カラートナー、モノクロトナー、感光ドラム)
サービスの提供: 商品およびパーツの保管と配送



(億円) 売上高推移 (2013年3月現在)



地域別売上高比率 (2013年3月現在)



社会からさらに信頼される存在となるために ものづくりの原点「品質」を見直しています

品質向上。このわずか4文字の単語を目標に、多くの企業がさまざまな取り組みを行っています。京セラドキュメントソリューションズもまた、ここに新しい価値を求め、その実

現に向けて新しい考え方としくみの構築に着手しました。本物の高品質は社会に利益と幸福をもたらすことを信じて動き始めた、私たちの改革にスポットを当てます。



取締役 常務執行役員
品質保証本部 本部長

巖島 圭司

従来の概念を覆す品質管理への取り組みが プロフェッショナルな製品やサービスを生む

私たち京セラドキュメントソリューションズは京セラグループの一員として、その経営の共通の原点である「京セラフィロソフィ」をベースにさまざまなCSR活動に取り組んでいます。その一つに、より良い製品とサービスを提供し、社会の要求に適切に対応し、ステークホルダーの皆様から絶对的な信頼をいただく、「お客様重視」があります。

昨年4月から取り組みを開始した「品質向上への改革」は、その理念を実践するために、品質管理の原点に立ち戻り、市場に送り出す製品の信頼性、市場に送り出した後のサービスのクオリティなどを今一度見直すことで、仕事への取り組み姿勢、プロセス、判断基準を新たに構築しようというイノベーションです。

◆ 要諦は「評価作業」ではなく「評価技術」

改革の最も大きな目標は、プロフェッショナルな製品、プロフェッショナルなサービスを提供するということです。そのためにはより論理的に、技術的に、確固としたメーカーとしての責任を果たしていかなければなりません。

従来、品質保証部門は、製品がお客様のもとで正確に機

能し、いかに目的が達成されるのかという確認作業が主であり、実際にテストして不具合が発生しなければ合格、という目線で評価していました。しかし、IT化が進んで次々と新しい技術が登場し、かつてない変革期が訪れている今日の市場にはその手法はマッチしなくなりました。また、グロー

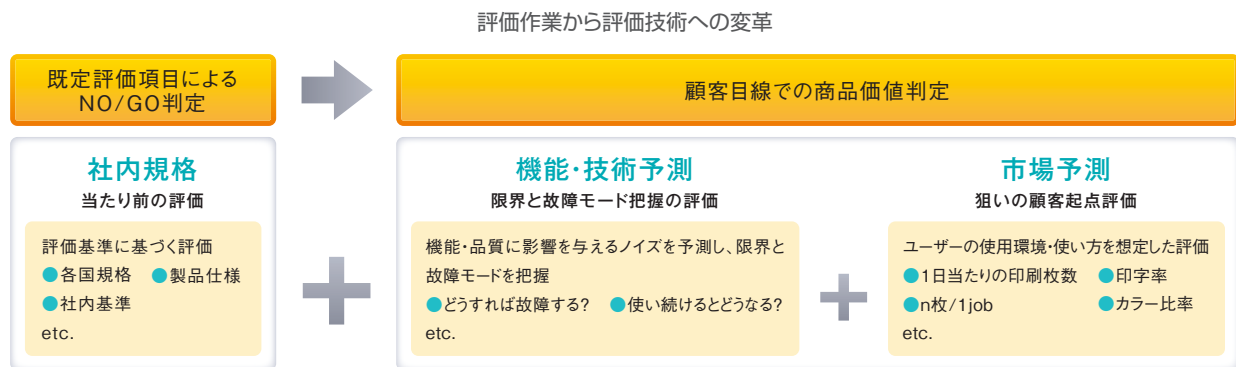
バルに事業を展開する当社としては、さまざまな使用環境や使用方法を想定し、どのような想定外のことが起こるかということ事前に把握しておき、製品がお客様にとって問題はないのか、あるいは最適なのかをあらかじめ注視することが重要ではないか。その発想から品質保証の取り組み姿勢を根本から変えていくことにしたのです。

ここで求められるのは思考回路のイノベーションです。品質保証の担当者としての正しい判断力と製品に搭載されている技術への理解を技術者と同程度まで高め、市場に出す前にどのような製品試験を行えば最良であるかということまで考えを巡らすことができる資質が問われます。

そのためには試験、評価の前に設計部門の技術者に製品の設計意図、背景、目指す方向などを確認するプロセスが必要となります。そのうえで、製品が目指している考え方は良いが、こういうリスクを伴っているのではないかと

たことを予測し、有意注意の形で品質試験を通して判断していきます。それは、設計技術とその意図を正確に把握するとともに、お客様の使い勝手やネットワーク環境など市場での情報を加えた両面から判断をするという取り組みを深掘りすることでもあるのです。

従来の「評価作業」から脱却し、目標設定の確定、正しい技術理解、さらに品質工学の学習まで幅広く、深い思索と想像力を高める取り組みを踏まえた「評価技術」にレベルアップしなければなりません。具体的には情報を理解し、評価の計画を記述して実行し、その結果としては正していくというPDCAの流れでステップアップを図っていきます。さらには、過去のトラブルのデータベースの再整備やDRBFM^{*1}の導入によって固めた基盤に、広範囲な知識や考え方を広めるために専門分野以外の学習会を重ねるなど、日々、多彩なテーマに基づいた議論を重ねています。



◆ 技術・製造・サービスの有機的連動を目指す

製品については信頼性評価や新製品の保証に関しては決められた基準で合否を判定するのではなく、信頼性工学をはじめ、かつてない手法を導入したうえで耐久性を評価し、どの素材を使えば機能を落とさないか限界まで把握することで初めて多様な市場で安心して使っていただける製品を送り出すことができる体制づくりを進めています。また、工場には工場向けのものづくりの品質管理手法を策定し、製造現場での技術理解の向上や部品一つひとつに至る品質向上を図って製品品質を高める施策を実施。併せて工程上のFMEA^{*2}による品質向上対策も導入しています。

記録として残るサービス情報は、次工程の業務を構築する資源となります。仕事をすればするほど情報が豊富になり、それが整備されて統計処理をされると、最終的に次の製品の設計にも寄与していくことになる。サービス情報と技術情報が相乗効果を発揮し、そこから新たな成長の兆候が醸成されると予測しています。

こうした考え方を打ち出しているのが今回の改革で、そ

の根幹である「品質」というキーワードを、技術開発、製造、市場サポートの3つの部門とも連携をとりながら、品質保証部門が有機的に連動させていくことが重要な鍵になるのです。製品の検証・評価、市場情報の収集・分析などそれぞれの担当者はすでにその実現に向けての取り組みを始めています。お客様からいろいろなことを教えていただきながら、学び続けることが基本姿勢です。そしてプロフェッショナルな製品を提供していく努力をさらに重ねてまいります。それがお客様の信用を得、私たちの製品を指名して購入していただく信頼につながるものと確信しています。

※1 Design Review based on Failure Modes

設計変更点や条件・環境の変化点に着目した心配点の事前検討を設計者が行い、さらにデザインレビューを通して設計者が気づいていない心配点を徹底的に洗い出す。この結果得られる設計・評価・製造へ反映すべき事項を踏まえ、未然防止を図る手法。

※2 Failure Mode and Effect Analysis

故障・不具合の防止を目的とした、潜在的な故障・不具合の体系的な分析方法。

よりよい製品を市場に送り出すために

最も品質の高さが問われるのは、新たに製品が市場に出たときです。今回の改革では、ここにもポイントを置きました。従来の経験値による評価に加えて、起こりうる可能性がある問題を事前に予測して評価し、さらに高い品質の製品をお客様にお届けする取り組みを行っています。

■ 評価の変革

設計思想と技術を理解し製品評価に臨みます



信頼性保証31課
野呂 誠

製品の品質保証を担っている私たちは、それが市場に出せるレベルかを評価し、また販売後の不具合に対しての是正をして再発防止に努めることが大きな役割です。過去のデータや経験をもとにした基準に基づき品質を評価するのですが、それでは変化するニーズや使用条件の異なる世界各国のユーザーの要望を満たせなくなるのではないかと

懸念がありました。そこで、今回の改革では「私の理解シート」による新しい評価基準を導入したのです。

新たに販売される製品に対して作成される「私の理解シート」に、まず技術部門から聞き取って各自が理解した新技術や設計変更内容、動作要件・メカニズムを左右する因子を踏まえ、どういう評価が必要かを書き込んでいきます。その後、品質部門の関係者が集まって、予想される課題についてディスカッションを行い、全員の知見や想像力から生まれた着眼点が書き加えられます。こうして従来の基準では見逃してしまいがちな案件や、異なる視点からの課題といった新しい項目が記されていくわけです。

これを使って評価することによって、販売予定の製品の品質の検証をさらに深めることで、起こりうる問題を開発段階から未然に防ぎ、お客様でのダウンタイムをさらに少なくするという取り組みです。



「私の理解シート」を用いたディスカッション

■ 検証の変革

製品の限界を見極め予知情報まで発信します



信頼性保証33課
堀喜一郎(左) 角島成徳(右)

私たちは、技術的背景を理解したうえで製品の限界を知り、限界を超えた場合の現象を把握して、故障モードを想定した情報提供をしています。従来は評価基準書をベースにして、製品仕様に記載している機能や性能を満足する製品であるかどうかで合否判定してきましたが、量産による性能のバラツキや、その原因に対してまでは十分把握しきれていませんでした。そこで問題が出る範囲やレベルを徹底的に実証しながら見極めたうえで市場に出すべきだと考えたのが、イノベーションのポイントです。

実証試験の結果もいろいろで、「そこまでやれば当然壊れる」といわれたり、反対に何万回と繰り返しても、なかなか壊れず限界が見えないこともありました。経験上この形状でなければ、この材料を使わなければと、コストのかかる材料をずっと使ってきたことが、実は過剰品質の可能性だったと分かったこともあります。

しかし、スペックの高低、定期メンテナンスの有無、これまでは取るに足らないと思われていたマイナーチェンジ、さらには納入先の国民性や気候・環境など、あらゆる条件あらゆる市場でどういう性能を発揮すれば一番お客様に喜ばれるのか判断するために、新しい視点を設けることは、品質の向上に不可欠だと考えています。



粉塵試験



カセット耐久試験



低温環境試験

市場情報をもっと生かすために

製品が市場に出たあとに発生するさまざまな問題は、製品を開発・改善していくうえで大きな参考資料となります。今回の改革では、その貴重な資源をより有効に生かすために、収集方法や分析方法に対する着眼を変えていきました。



■ 情報分析の変革 グローバルな市場データ分析と 経営的活用を目指しています

品質保証13課
熊本 秀近

私たちのグループの役割は、製品やサービスの品質に関わる市場データを世界中から収集・分析し、関連部門にフィードバックすることです。現在、製品開発や保守・サービスにおける課題解決のための提案を、より具体的かつスピーディーに行うことを目的として、お客様先の製品から収集する稼働データ、サービスマンによる保守・サービス活動データ、保守パーツの出荷情報、コンタクトセンターの受電記録などのデータを国内外から幅広く収集し、多変量解析等の統計的手法やテキストマイニングにより、品質リスクや障害要因を統合的に分析するシステムを構築しています。このシステムから得られる分析データを経営のバックデータとして活用することで、製品やサービスの継続的な品質向上を図るとともに、お客様の潜在的なニーズを汲み上げることを目指します。



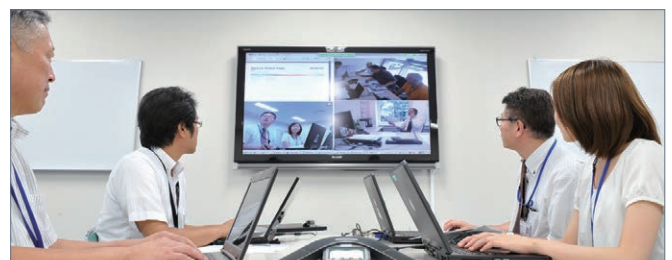
分析したデータをディスカッションして検証



■ 情報収集の変革 海外販社との電話朝礼で 問題の芽をキャッチしています

品質保証21課
林 浩二

私たち販社市場サポートチームは、主にヨーロッパおよびオセアニアのさまざまな問い合わせや故障情報の窓口として、関連部門と連携し調査・回答を行い、製品の品質改善や次期モデルへの反映を担当しています。そこで常にネックとなっていたのが、時差や距離のために情報収集の遅れや対応の遅れが生じることでした。これを解消するため、2012年から海外駐在の日本人テクニカル担当者と15～30分程度、話し合う電話朝礼を開始したのです。毎日ダイレクトに情報交換ができるこの方法は、見過ごされてきたような小さい問題などを火種のうちに解決でき、将来的に起こりうるトラブルの予測材料にもなると、定着しています。



テレビ会議システムを利用した海外との朝礼



お客様とともに

京セラドキュメントソリューションズでは、企画・開発・製造・販売・使用・サポート・回収にわたるライフサイクルの全プロセスで「お客様第一主義」を貫いています。

品質保証の方針

品質向上

品質保証本部は、お客様のもとで当社の製品が常に安定して稼働するように、各種信頼性試験を行うとともに、市場からの情報をもとにしてより良い製品、お客様に喜んでいただける製品となるようサポートを行っています。

2013年度は、製品の品質をさらに向上するため、4つの取り組みを実施し、お客様へより良い製品を提供できる品質保証体制の強化を図ります。

- | | |
|---|--|
| 1 | 未然防止を目的とした新しい評価方法、検証技術を取り入れた信頼性検証への変革 |
| 2 | 品質を工程で作り込む製造品質管理の改革 |
| 3 | 市場でより安心してご使用をいただくために 市場でのサービスサポート品質の強化 |
| 4 | さらに品質を維持させるために 継続的な品質システムの維持管理 |

また、商品の設計・開発においては、商品を実際にお使いいただくお客様からのご意見や商品の市場での稼働状況を把握し、「お客様目線」で新製品へフィードバックして生かすことを重要視しています。設計段階から「お客様目線」を意識した設計を行い、お客様にとって価値ある設計を行い、

その信頼性検証においては、お客様の実際の使用環境を意識した検証試験を実施します。

市場サポートを通してお客様の声に真摯に耳を傾け、その声を次の新製品に反映させ、品質のPDCAが回る「ものづくり」を目指します。

安全設計委員会

お客様に商品を安全にお使いいただくとともに、製品の安全性をさらに向上させることを目的として「安全設計委員会」を設置しています。

安全設計委員会は評価と設計のエキスパートによって構成されており、独立した立場で安全設計の確認を行い、製品の安全性を確保しています。

PL管理規定

当社は、製品が販売される対象国の公的機関による製品安全に関する規制（安全規格・レーザー規格・環境規制など）への適用は当然のこととして、当社独自の「PL管理規定」を制定し、製品安全確保の対応手順と各部門の役割を明確に定め、事故を未然に防いでいます。

… 使いやすい製品・人にやさしい製品

ユニバーサルデザインの基本的な考え方

京セラドキュメントソリューションズでは、ものづくりにおいて「お客様重視」の視点を貫いています。そのため、お客様の声に耳を傾け、さまざまなお客様のさまざまな使われ方を理解した上で設計を行う、「ユーザー中心の設計」(UCD)という開発プロセスを取り入れています。特に、設計プロセスにおいて、お客様ニーズの把握→プロトタイプ製作→評価を繰り返し、より使いやすい製品の実現を目指しています。また、障がいを持った方や高齢者の方の気持ちを理解するために、開発担当の技術者やデザイナーが障がいを持った方の職場環境を見学したり、自ら高齢者体験キットなどを使用して、製品を検証し開発に反映させています。



車いすでの操作性検証

高齢者体験キット



事例 1

見やすくわかりやすい カラータッチパネル

大きなアイコンをシンプルに配置した見やすくわかりやすい操作画面です。一般的な操作方法の他にウィザード形式※の操作方法を搭載しています。対話式の一画面一設定だから、初心者でも簡単に操作可能です。

※ウィザード形式：対話形式で機能設定する操作方式



事例 2

テンキーで操作できる ユニバーサルモード

弱視の方でも見やすい大きな文字を使ったかんたん設定画面です。ほとんどの設定操作がテンキーのみで行なえるため、タッチパネルによる操作が難しいお客様でも安心、簡単にお使いいただけます。



事例 3

文字がくっきり見やすい 操作パネル

背景を濃紺色、表示文字を白色にすることでコントラストを強くし、弱視の方でも見やすいよう配慮しています。



事例 4

角度調整できる 操作パネル

操作パネルを、車いすを使用する方や身長の高い方にとって見やすい角度に調整することが可能です。また、一般のユーザーの方にとっても、設置環境による蛍光灯の映り込みによる見難さを解消することができます。

●● お客様満足度向上への取り組み

国内販社である京セラドキュメントソリューションズジャパンは、お客様からのお問い合わせや障害対応依頼の受付業務を行うコンタクトセンターと、全国62カ所のサービス

拠点、および販売パートナー様のサービスネットワークにより、お客様にご満足いただけるサービスを提供しています。

コンタクトセンターの取り組み

コンタクトセンターは、お客様からのお問い合わせに対して、迅速かつ的確な対応を提供するとともに、お客様の声を製品開発に生かしていく役割を担っています。軽微な障害については電話によるサポートを充実させ、技術スタッフとの連携によりお客様の稼働装置のダウンタイムの軽減を図っています。また、お問い合わせ内容はデータベースに蓄積して、すばやい対応力の向上や新製品開発への改善点としてフィードバックしています。



コンタクトセンター

カスタマーエンジニアの取り組み

サポート活動によってお客様に提供する価値を高めるため、カスタマーエンジニアは、サービス活動の標準化をはじめ、お客様のご要望を正確に把握するコミュニケーションスキル、課題解決の適切な提案を行うソリューションスキル、製品を安定維持するテクニカルスキルの習得・向上に努めています。

このような取り組みをさらに推進するため、「サービスコンテストCSマスターズ」を定期的で開催し、それぞれのスキルを競い合い、サービス品質を高めるとともに、お客様への対応力向上に取り組んでいます。



サービス向上を目指して開催している「サービスコンテストCSマスターズ」

●● 購買活動の基本的な考え方

購買活動の基本的な考え方を「京セラドキュメントソリューションズ購買基本方針」として制定し、法令の順守に加え環境

保全活動への積極的な取り組みなどを全お取引先へ文書で配布しています。

公平公正な取引の実施

京セラドキュメントソリューションズは、お取引先を専門知識と技術を持つ必要不可欠なパートナーと考えています。また、当社もお取引先にとってよきパートナーであることを目指し、京セラフィロソフィをベースとした「公明正大」「自利利他の精神」に基づいて、お取引先との共存共栄を追求しています。

お取引先の選定に当たっては、当社の「購買基本方針」を理解いただけることを前提として、法令の順守、技術開発力、環境保全、経営基盤の安定性、製品やサービスの品質、信頼性、価格、納期の確実性、アフターサービス等に基づく評価基準に従い、総合的に判断します。

法規制の順守

下請法の順守を徹底するために、各拠点の資材担当者や外注管理担当者を対象とした社内教育を継続して実施しています。日々の業務において各部署でそれぞれチェックするとともに、監査部門が年1回内部監査を実施し、順守状

況についてダブルチェックを行っています。また、公正取引委員会や(財)全国中小企業取引振興協会が開催する講習会に参加し、法改正など常に新しい情報を取り入れています。

紛争鉱物規制対応

2010年7月に制定された米国ドッドフランク法(金融規制改革法)において、コンゴ民主共和国および隣接諸国の武装グループの資金源となっている紛争鉱物(金・錫・タンタル・タングステン)の取引を規制する条項が設けられました。

京セラグループの当社におきましても、当該地域における武装勢力の資金源となる紛争鉱物を使用した材料・製品などを購入しないことを方針としています。このため、京セラグループは日本においては、2013年1月、東京、京都、大阪、

鹿児島県の4拠点でお取引先に対する合同説明会を実施し、中国でも2013年7月、当社石龍工場において現地お取引先を招いて紛争鉱物に対する取り組み方針や調査の方法などについて理解を求めました。

現在は、当社納入品に含まれている4金属が武装勢力由来のものかどうか調査を行っています。

CSR調達推進状況の把握と体制の整備

2008年度に開始した、お取引先のCSR調達の推進状況の調査結果に関する分析、評価は終了しました。また、新規にお取引を開始する場合、「京セラドキュメントソリューションズCSR推進ガイドブック」、「京セラドキュメントソリューションズ・サプライチェーンCSR推進チェックシート」(以下、「チェックシート」)をお渡しすることをルール化し、当社のCSRに関する考え方をご理解いただくとともに、お取引先ご自身で自社の推進状況をチェックし、現状を再認識いただくことをお願いしています。

調査を実施したお取引先のその後の取り組み状況につい

ては、不足項目に対する改善状況の再アセスメントを継続しており、今後も毎年継続してゆく予定です。



京セラドキュメントソリューションズ
CSR推進ガイドブック



京セラドキュメントソリューションズ・
サプライチェーンCSR推進チェックシート

◎中国石龍工場におけるCSR調達の取り組み

2012年7月25日、京セラドキュメントテクノロジー 石龍工場(中国・東莞市)において、現地のお取引先190社230名をお招きし、CSR調達推進ガイドブックの改訂に関する説明会を実施しました。この説明会では、厳しい市場競争の環境にあっても、お取引先が継続発展していくためには、正しい企業活動を行うことの重要性をご理解いただき、今後中国におけるCSR調達の推進活動に協力をお願いしました。

この説明会の実施の後、お取引先に対しチェックシートによるCSR推進状況のアンケート調査を実施、現在は回収した結果の分析も終了しています。今後は、分析結果に基づき、お取引先への監査や教育の実施など、具体的な展開ステップへ移行していきます。



WEBは
コチラ！

お客様とともに

検索



環境保護への取り組み

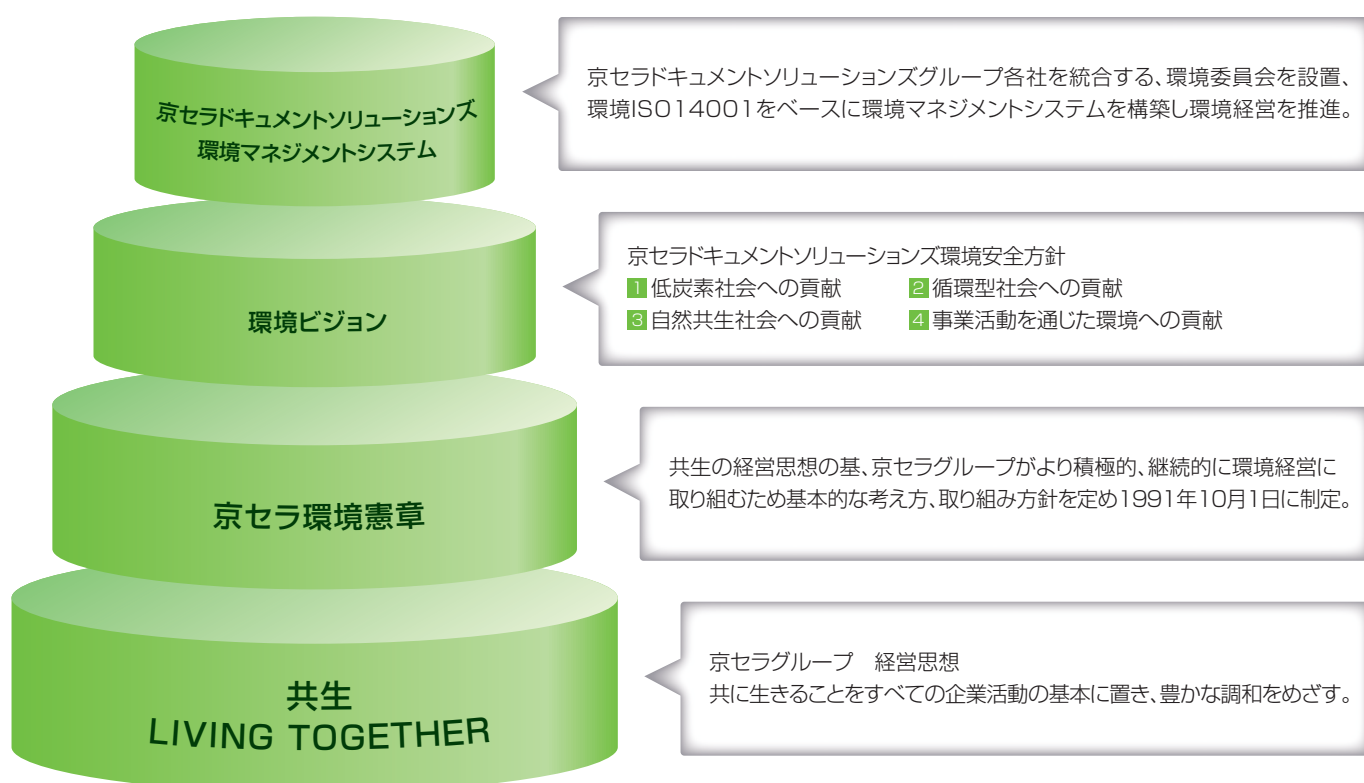
京セラドキュメントソリューションズは、京セラグループが制定した「環境ビジョン」の実現のため事業活動における環境負荷の低減と、製品のライフサイクルを通じた環境負荷の低減に取り組んでいます。

●● 京セラドキュメントソリューションズの環境経営

当社は、京セラグループの一員として、「共生（LIVING TOGETHER）」の考えのもと、1991年に制定された「京セラ環境憲章」、およびこの憲章をより具体化した

「環境ビジョン」に沿って企業の持続的な発展をめざす「環境経営」に取り組んでいます。

京セラドキュメントソリューションズ環境経営の概念図

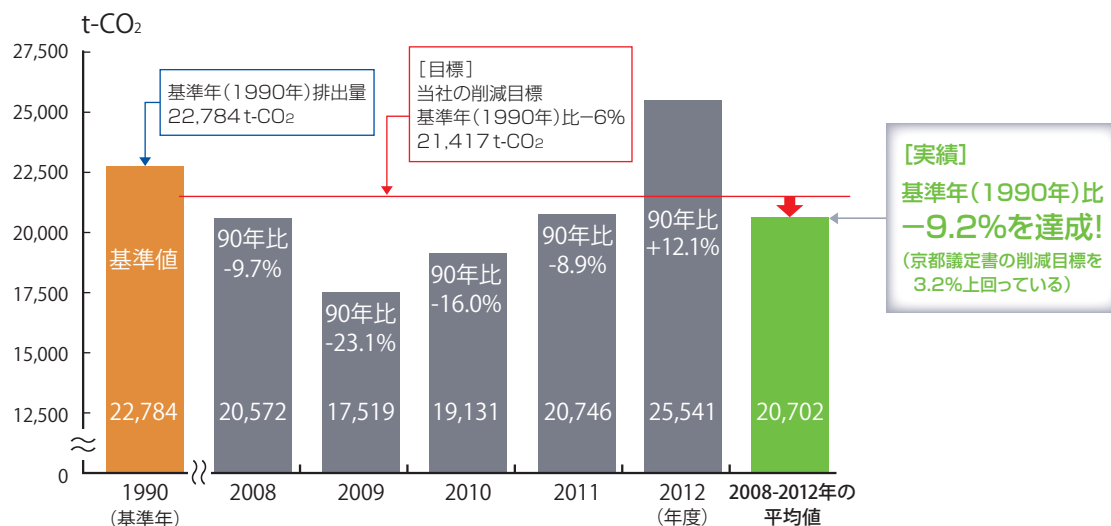


京都議定書第一約束期間(2008年-2012年)のCO₂排出量削減目標を達成!

「CO₂排出量を2008年度～2012年度平均で1990年度比6%削減する」との京都議定書の目標を達成するため、CO₂排出量削減に取り組んだ結果、2008年度～2012年

度の平均で9.2%削減し、京都議定書の削減目標を達成することができました。

京都議定書第一約束期間におけるCO₂排出量の目標と実績



京都議定書第一約束期間以降の日本経団連の低炭素社会実行計画に参加

京都議定書第一約束期間以降の地球温暖化に対する取り組みとして日本経団連は環境自主行動計画を策定しました。

電機電子業界4団体*は以下の目標と方針を重点取り組みとして掲げ、この計画に参画しています。

- 方針**
1. ライフサイクル的視点によるCO₂の排出削減
 2. 国際貢献の推進
 3. 革新的技術の開発

- 目標**
- 生産プロセスのエネルギー効率改善/排出抑制
 - 2020年に向け、エネルギー原単位改善率:年平均1%
 - 製品・サービスによる排出抑制貢献
 - 排出抑制貢献量の算定方法確立と毎年度の業界全体の実績公表

※電機電子業界4団体:(社)電子情報技術産業協会、(社)日本電機工業会、(社)ビジネス機械・情報システム産業協会、(社)情報通信ネットワーク産業協会

今後の取り組み方針と目標

当社も加盟する業界団体「ビジネス機械・情報システム産業協会(JBMIA)」は、電機・電子業界4団体として共同で「温暖化対策連絡会」を設立し低炭素社会実現のための取り組み方針と目標を定めました。当社としては、2012年4月、京都議定書第一約束期間以降も関連業界と一体となって

地球温暖化対策に積極的に取り組むため、日本経団連に加盟する電機電子関連企業が制定した「電機電子自主行動計画」への参加を表明しました。今後は「CO₂排出量を2020年度までに、エネルギー原単位で毎年1%削減する」を目標として取り組みます。

●● 温暖化対策・省エネルギー活動

当社は、京都議定書第一約束期間の最終年にあたる2012年度にも、京都議定書の達成を目標として国内各

生産拠点、事業所においてさまざまな工夫による省エネ施策と課題に取り組みました。

さまざまな節電対策でピーク電力削減率を達成

国内の各生産拠点・事業所において、夏場は2010年度比でピーク電力15%削減、冬場は6%削減を目標に節電施策

に取り組んだ結果、夏冬ともに目標のピーク電力削減率を達成しました。

設備を高効率機に更新

各事業所では、古いパッケージエアコンの更新、および冷温水発生器の更新・台数見直しにより、空調設備の効率化を図りました。製品開発の現場で使用する商用電源の周波数変換装置を使用頻度に応じた最適な配置と設置台数の見直し、照明器具への人感センサーやLED照明の導入など、さまざまな省電力対策を実施した結果です。

サーバーの仮想化による消費電力の抑制

当社は、2010年より、サーバーの仮想化を積極的に推進し、増加するサーバーの消費電力を抑制してきました。現在、219台のサーバーが仮想化環境で稼働していますが、従来の物理サーバーのままで稼働していた場合と比べ、サーバーの消費電力は75%削減できました。

主な省エネ施策

- ・ 生産工場において、先行生産および休日振替稼働により生産ラインの同時稼働台数を制限し、消費電力のピークカットを実施
 - ・ クールビズ、ウォームビズの実施（夏28度、冬19度）
 - ・ デスクトップ型PCから、ノート型PCへの更新
 - ・ ピーク時間帯のノート型PCバッテリー駆動の推進
 - ・ 空調、全熱交換機の一時停止 等
 - ・ 天窓やベランダガラスに遮熱フィルム、ブラインドの設置
 - ・ 照明の間引き、事務機器の台数見直し、自販機の停止 等
 - ・ 扇風機の使用による空調電力の削減
 - ・ 出勤退社時を除く、エレベーターの稼働台数の削減
 - ・ フロアレイアウト変更によるエアコンの停止
 - ・ ソーラー発電設備の設置
- など

グリーンカーテンの実施

各事業所では、2011年に電力会社から強く要請された夏冬のピーク電力カットに応えるため、社員の省エネ意識の向上と夏場の空調電力の削減を主眼にしてグリーンカーテンを実施しています。



本社屋上に設置したソーラー発電設備
(2012年度 発電量実績 13,614kWh)



育成方法を調べ、さまざまな工夫で成長した
ゴーヤカーテン

● エコシスコンセプトに基づくものづくり

京セラドキュメントソリューションズでは、1992年初代エコシスプリンター「ECOSYS FS-1500」の誕生以来、長寿命化技術に基づく環境性(Ecology)と経済性

(Economy)に優れたエコシスコンセプトに基づいたものづくりを行っています。

エコシスコンセプトとは

エコシスコンセプトとは当社独自の長寿命化技術で、プリンターの稼働にともなう交換パーツを極限まで少なくし、トナーを補給するだけで使い続けることができる、環境性

(エコロジー)と経済性(エコノミー)に優れた環境配慮商品の開発コンセプトです。

地球環境への負荷が少ないエコシスプリンター

長寿命を誇る京セラのa-Si(アモルファスシリコン)感光体ドラムを採用し、その周辺部品も徹底して長寿命化することで、感光体ドラムと周辺の部品を交換することなく製品寿命まで使用することができます。そのため、廃棄物自体が

少なく、環境に優しいプリンターと言えます。また、ランニングにともなう消耗品のコストも低減できるため、お客様は経済的にご使用いただけます。

エコシスプリンターは外部機関から高い評価

エコシスコンセプトの高い環境性と経済性が認められ、技術関連団体、欧米の製品テスト機関から評価され表彰を受けています。2000年には、長寿命電子写真プロセスの開発と環境配慮プリンター商品化により、エコシスプリンターが第46回大河内記念技術賞を受賞。2003年には、長寿命化による印字コストの低減、クラス最小・最軽量の小型化を実現などの理由により、日本画像学会の技術賞を受賞しました。2013年、オフィス機器の信頼性、画質、ユーザビリティなどを評価している米国の独立評価機関BLI社から、モノクロプリンター ECOSYS FS-4300DN、およびカラープリンター FS-C8650DNがその信頼性・耐久性、環境性、経済性が高く評価され、最高評価の「Highly Recommended」に認定されました。

※BLI社:Buyers Laboratory Inc.



左:2013年、最高評価である「Highly Recommended」に認定されたA4 モノクロプリンターECOSYS FS-4300DN
右:A3 カラープリンターECOSYS FS-C8650DN

● 環境配慮設計

新開発長寿命a-Si感光体ドラムの開発

2012年に発売したカラー複合機(A3)から、新開発の長寿命感光体ドラムを採用しています。新開発ドラムは、従来のa-Si感光体ドラムの表面保護層に、高硬度で耐久性に優れたa-C(アモルファスカーボン)系薄膜を採用することで、より長寿命化を達成しています(従来のカラーMFP機のドラム寿命30万枚に対して60万枚と2倍の長寿命を実現)。新開発のa-C系薄膜

はダイヤモンドに近い硬度を持つため耐久性に優れています。その分、層の厚みを薄くすることができ、感度も高くなり画質の向上にも役立っています。



長寿命感光体ドラム
(従来のカラーMFP機のドラム寿命が30万枚に対して60万枚と長寿命を実現)

新定着システムの採用で大幅な低消費電力を実現

2012年に発売したモノクロプリンターEcosys LS-2100Dは消費電力の大きい定着装置に「保温定着システム」を採用、コントローラーにも省電力タイプを採用することで、従来機に比べ29%の消費電力を削減しました。

保温定着システムとは、熱でトナーを溶かして定着する熱ローラーとプレスローラーの周りを空気層で覆い保温する

ことで、プリント終了後の温度低下を緩和し、再びプリントする時の再加熱時間を短縮するシステムです。

消費電力比較(TEC値※)

当社従来機	新製品	効果
ECOSYS LS-2010D 2.794(kWh/週)	ECOSYS LS-2100DN 1.991(kWh/週)	29%削減
ECOSYS LS-4020DN 3.456(kWh/週)	ECOSYS LS-4200DN 2.668(kWh/週)	23%削減

※TEC値:概念的1週間の消費電力量を「kWh」(時間あたりの消費電力量)で表した数値。

オフィス環境への配慮

当社の製品は、最も厳しい環境ラベルとして多くの環境ラベルのベースとなっているドイツのエコマーク「ブルーエンジェル」(当社は1997年、プリンターでは世界で初めて取得)の厳しい基準をクリアしており、粉塵や騒音の抑制、VOC※1排出量の削減など、オフィス環境の保護といった点からも優れた環境性能を発揮しています。また、a-Siドラム、PSLP※2有機感光体ドラムなど、正帯電(+帯電)で用いることのできる感光体を採用しており、従来の帯電方式では少量発生していた臭気を伴うオゾンの発生を、測定が困難なレベルまで軽減しています。

※1 VOC:

揮発性有機化合物。トルエン、キシレン、酢酸エチルなどが代表的な物質であり、塗料、印刷インキ、接着剤、洗浄剤、ガソリン、シンナーなどに含まれます。

※2 PSLP:

正帯電単層 OPC ドラム
(Positive-charged Single Layer
Photoconductor)



「ブルーエンジェル」のロゴマーク

省資源梱包設計の採用

「小型プリンタースマート包装」が世界包装機構主催の包装デザインコンテストで、2009年から5年連続7度目の「World Star 2013」を受賞しました。業界最小レベル緩衝距離30mmのパルプモールド緩衝材を使用し、落下高さを従来より25%高とした落下試験をクリアしました。さらにビニール包装袋に取っ手をつけて製品を容易に取り出せるように工夫したことが評価されたものです。



製品包装袋
(取っ手を持って引き上げる様子)

World Star Winner
2013 のトロフィー

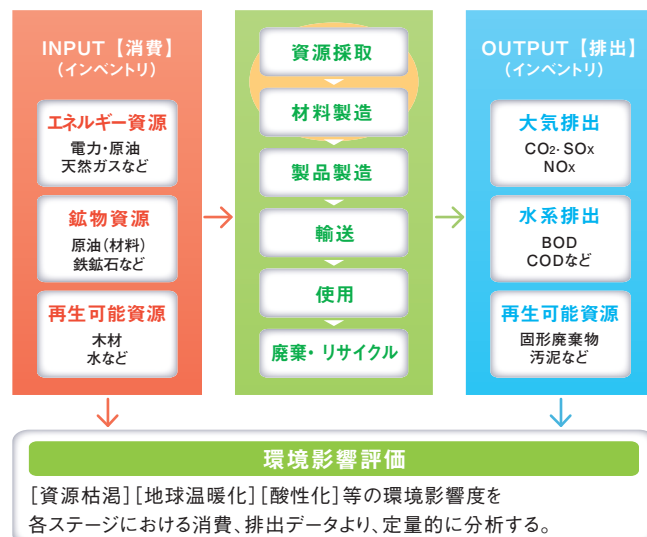
●● LCAの取り組み

当社では、製品が環境にもたらす負荷を製品のライフサイクル全体で把握し、低減させていくため、全製品のLCA(ライフサイクルアセスメント)を実施しています。

LCAとは

LCAとは、製品やサービスを、資源の採取から製造、輸送、使用、廃棄・リサイクルの各ステージで使われた資源やエネルギー、排出物の量を数値で表し、環境に与える負荷を「見える化」する手法であり、事業における環境負荷低減活動の計画や成果を客観的に評価できます。当社は、ISO規格に基づくLCA手法を用いたタイプⅢ環境ラベルとして国内唯一の「エコリーフ環境ラベル」を取得しています。

ライフサイクルステージ



化学物質管理への取り組み

製品を製造・販売する世界各国の環境法規制に対応するため、2003年に制定した「化学物質管理基準」をベースに、

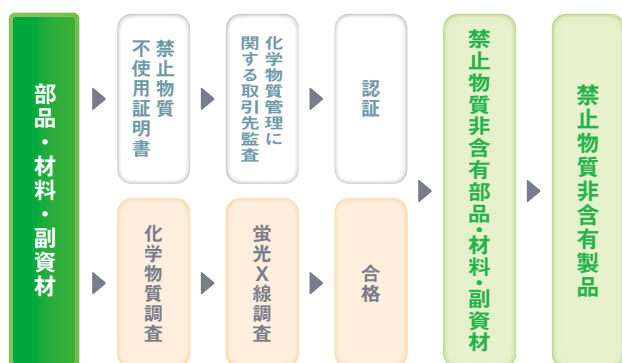
日々製品管理を徹底し、サプライチェーン全体にわたる化学物質管理体制を構築しています。

グリーン調達への推進

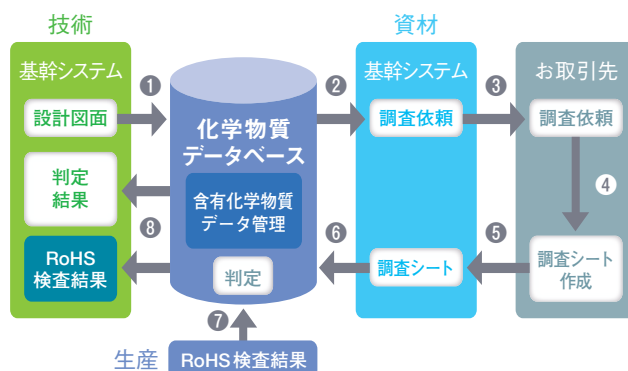
法令で禁止されている物質を含まない製品をつくるためには、製造工程で使用する部品・材料・副資材のすべてにおいて禁止物質が含有されていないことが必須条件です。当社はすべての部品・材料・副資材について含有化学物質調査を行うとともに、各工場に蛍光X線分析装置を設置して、EUのRoHS指令で使用を制限された特定有害物質6物質※の非含有を確認しています。お取引先に対しては、禁止物

※RoHS指令使用禁止物質 (1)鉛、(2)水銀、(3)カドミウム、(4)六価クロム、(5)ポリ臭化ビフェニール(PBB)、(6)ポリ臭化ジフェニルエーテル(PBDE)

京セラドキュメントソリューションズグリーン調達の取り組み



グリーン調達システム



お取引先への監査

化学物質管理を確実に実施するため、当社では新規にお取引を開始するにあたり、化学物質管理に関する監査の実施を徹底しています。原則として、この監査に合格し認証を取得した事業者とのみ取引を行うことをルールとしています。また、認証を完了しているお取引先に対し、毎年、「化学物質管理自己評価用チェックシート」(以下「自己評価チェック

シート」)を配布し、日常の維持管理について、お取引先ご自身で評価いただくこととしています。評価結果は当社で審査し、化学物質管理に関する運用が維持できているかの確認を行います。今後は、「自己評価チェックシート」の内容を改訂し、さらなるレベルアップを図ります。

お取引先との共有システムの充実

グリーン調達システムと連携し、お取引先への含有化学物質の調査依頼ならびに調査結果のご報告をいただくツールとして、当社では2004年からEDI※を採用しています。EDIは国内をはじめ香港、中国のお取引先をカバーするグローバルなシステムで、Web上において、右のような業務を行うことができるため、お互いの業務の合理化・効率化の向上に貢献しています。

EDIによる業務

- 含有化学物質調査についての調査依頼と報告受理および、その判定
- お取引先への発注業務から注文に対する納期の回答
- 日々の検収情報や月度買掛情報の提供

※EDI: Electronic Data Interchange

●● 資源循環への取り組み

当社は、使用済みとなった製品を回収し、部品や材料の再使用・再資源化を積極的に図る資源循環システムを構築することで、新たな資源の使用を抑え、地球環境への負荷を低減しています。さらに、お客様から回収した製品

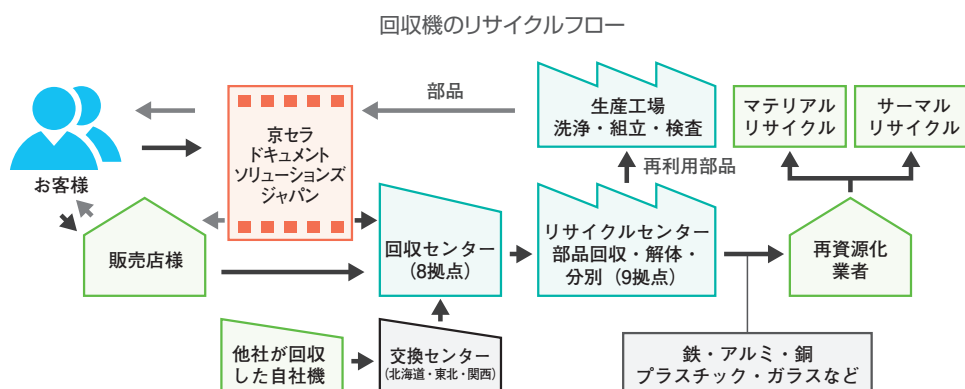
の分解時に得られた、再使用・再資源化に関する貴重なデータを当社の環境配慮設計基準に反映し、環境にやさしい製品を開発・提供するために活用しています。

製品の回収リサイクル

当社は、日本国内に8カ所の回収センターと9カ所のリサイクルセンターをそれぞれ設置し、回収された使用済み製品をリサイクルしています。リサイクルセンターでは、手作業で分解し、再使用できる部品はリユースし、再使用できない部品も細かく分別することでマテリアルリサイクルを

優先する「資源循環システム」を構築しています。当社はこれらの資源循環システムにより、現在、廃棄物の埋め立てゼロ（ゼロエミッション*）を継続しています。また、これらのリサイクルセンターを全国に分散配置することで輸送に関わるCO₂も削減し温暖化防止に努めています。

*ゼロエミッション:京セラドキュメントソリューションズは、「最終処分量埋め立て率0.5%未満」をゼロエミッションと定義しています。



トナーコンテナの回収とリユース

当社は、1998年からトナーコンテナの回収とリユースに取り組んでいます。お客様のもとで使用済みになったトナーコンテナは、回収センターに集められた後、トナーコンテナ再生工場に輸送され、選別基準に従って再使用可能か否かを

チェックされ、合格品のみ再生工程に投入されます。再生工程では、初めに清掃を行い、その後外観検査や気密試験など新造品と同等の厳しい検査が行われ、合格したトナーコンテナにトナーを充填し再び製品として市場に出荷されます。

トナーコンテナのリユース工程



●● エコロジスティクスの推進

京セラドキュメントソリューションズでは、製品をお客様にお届けするまでの物流段階でも、輸送に関わる環境負荷を少し

でも軽減するため、全世界で新たな物流ルートの開拓や輸送方法の改善などさまざまな取り組みを実施しています。

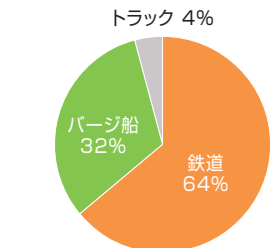
欧州でのCO₂削減活動

当社は欧州での物流拠点としてオランダのベリンゲに欧州物流センター(EDC: European Distribution Centre)を置いています。EDCに搬入される製品は主に石龍工場(中国)から出荷され、オランダのロッテルダム港で陸揚げされます。ロッテルダム港から内陸部のベリンゲにはさまざまな輸送手段がありますが、環境への負荷がより少ない、鉄道輸送、河川を經由するバージ船*での輸送を推進しています。2013年度の輸送手段別構成比は、鉄道64%、バージ船32%、トラック4%となっています。

*バージ船:港から、河川や運河を利用して目的地までコンテナを運ぶ小型の輸送船。



各輸送手段のコンテナ比率



左上:バージ船
左下:鉄道

国内でのCO₂削減活動

国内における生産量の減少に伴い、輸送にかかるCO₂排出量は減少していますが、各事業所においては地道な改善活動を継続的に行っています。

玉城工場では、協力工場と玉城工場間のトラック輸送の運用の効率化に取り組み、便数の削減と車両の小型化を行うことで、燃料(軽油)の使用量を年間1,801リットル削減しました。

●● 生物多様性保全の活動

京セラドキュメントソリューションズグループは、生物多様性保全活動の重要性を認識し、各地でさまざまな活動を行っています。

事業所の生物多様性保全アセスメントの実施

当社は「共に生きる(LIVING TOGETHER)」をすべての企業活動の基本におき、本社、東京R&Dセンター、枚方工場、玉城工場の事業所に生物多様性リスクがあれば、改善策を検討し、計画的に改善を図る活動を推進しています。2012年に水系・大気・土壌・生態系等へのリスク調査および評価を済ませた枚方工場では、2013年には対策を検討し改善を行う計画を立てています。また、残りの3事業所においても2013年に調査を完了させる予定です。



左上:環境アセスメント評価中の工場内で捕獲されたアライグマ
右上:ミシシippアカミミガメ
左下:トウネズミモチ
これらの外来種の駆除が課題



WEBは
コチラ!

環境保護への取り組み

検索



社会とともに

京セラドキュメントソリューションズは、人類、社会の進歩発展に貢献することを願い、「社会との共生」「世界との共生」「自然との共生」共に生きることを経営理念としています。この社会とのつながりが、私たちの心をより豊かにしてくれるものと信じ、全世界のグループ企業で環境保護や社会貢献活動に取り組んでいます。

●● 京セラドキュメントソリューションズの社会貢献活動

当社の今日の発展は社会からの有形、無形の支援のおかげであるとの思いから、社員の自主的な社会貢献活動を通じて社会の皆様へ感謝の気持ちを伝えていきたいと考えています。この理念を形にするため、2007年5月に「社会貢献

委員会」を発足させました。当社の発展を支えていただいた、お客様やお取引先、地域の皆様への感謝の気持ちを込めて以下の活動方針を定め、「青少年の健全な育成に寄与すること」を重点目標にして活動に取り組んでいます。

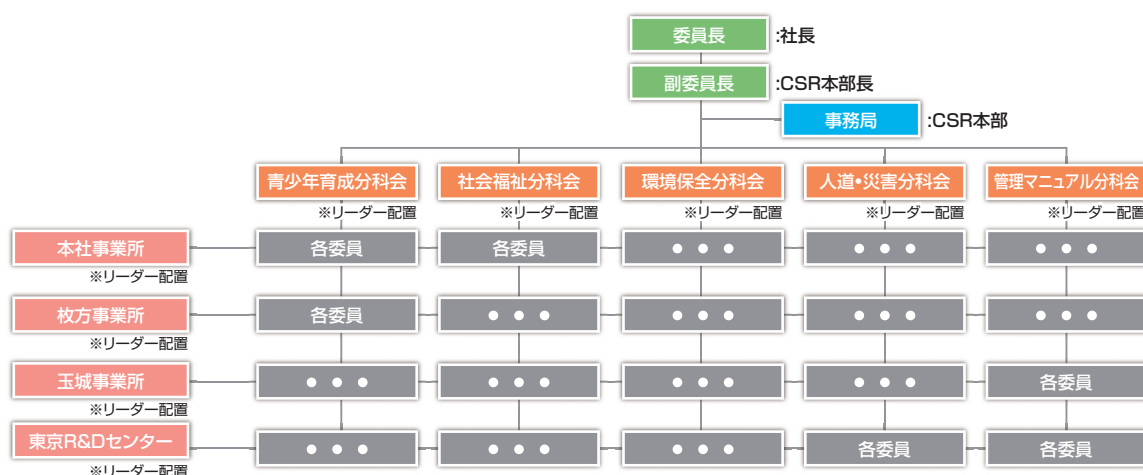
社会貢献委員会の組織と活動

社会貢献委員会は社長を委員長として、副委員長、事務局をCSR本部に置いています。委員会の組織は、活動分野ごとに ①青少年育成分科会 ②社会福祉分科会 ③環境保全分科会 ④人道・災害分科会 ⑤管理マニュアル分科会の5つの分科会があり、活動地域の各事業所から部門毎に選出された社会貢献委員はいずれかの分科会に属して活動するマトリクス構造になっています。

5項目の活動方針

1. 地域に密着した身近な活動に取り組む
2. 継続して取り組める活動
3. 未来を担う子ども達の育成、教育に関連した活動
4. 環境保全に役立つ取り組み
5. 社員が参加できる取り組み

社会貢献委員会の組織図





CSR本部
本部長 木村 正喜

社会貢献活動への想い

“未来を担う子どもたちのために”

京セラドキュメントソリューションズは、「企業は社会の一員である」との認識に立ち、地域や社会が抱える課題に積極的な関心を持ち、その解決に努めるとともに、与えられた資源を有効に活用し社会貢献を継続していきたいと考えています。

私たちを支援していただいている、お客様やお取引先、そして地域の皆様への感謝の気持ちを地域や社会へお返しをするため、社会貢献委員会を発足させ、その活動も本年度で7年目を迎えることとなりました。

当社の社会貢献活動は世界各国において、青少年の育成活動、社会福祉活動、環境保全活動、人道・災害活動などさまざまな分野で展開しております。主に「子供たちの健全な育成に役立つ取り組み」をベースに、未来を担う子どもたちの健やかな成長と育成を願い、その教育の一助となる活動を中心に据えて取り組んでいます。例えば、大阪市内の小学校、工場事業所近隣の小学校を対象とした理科実験授業や環境出前授業の実施、大阪市の児童福祉施設のさまざまな活動を支援しています。これらの活動を通して、子どもたちの笑顔と笑い声にふれることができ、活動に参加した社員の成長と仕事への原動力となっていることも実感しています。これからも、社員一同積極的に社会貢献活動に取り組んでまいります。

環境保全分科会の活動

京セラグループ各事業所が所在する地域や近郊の、環境・生態系の保護を目的として活動しています。継続して取り組んでいる主な活動は、兵庫県豊岡市でコウノトリ生息地周辺の環境保全活動、大阪市能勢町で稀少種の蝶が生息する森林の保全活動、琵琶湖と三重県松名瀬干潟での生物多様性保全活動などです。



稀少種のミドリシジミ類の蝶を守るための植林活動(大阪府三草山)

青少年育成分科会の活動

小中高校生の青少年の健全な育成を目的として、環境・文化・スポーツ等の活動への支援を行っています。継続して取り組んでいる主な活動は、小学校の理科実験授業の実施、環境出前授業Kids'ISOの実施、中学生の職場体験学習の受け入れなどです。



理科実験授業

社会福祉分科会の活動

児童福祉施設に入居している児童を対象に、その健全な育成、自立支援を目的として活動しています。継続して取り組んでいる主な活動は、新春こども大会、スポーツ大会の開催支援、京セラドーム大阪でのプロ野球観戦招待などです。また、障がいを持つ人たちが働く授産施設で作られたパン、クッキーなどの販売支援を行っています。



授産施設で作られたパン、クッキーなどの販売支援

人道・災害分科会の活動

大規模災害時や歳末などに、不幸な境遇にあるある人々を支援するための募金活動や収集ボランティア活動を行っています。継続して取り組んでいる主な活動は、事業所ごとの献血活動、歳末助け合い募金、ベルマークの収集活動などです。



玉城工場の献血活動

京セラドキュメントソリューションズ ヨーロッパ

自然公園の環境保全活動に参加

オランダではボランティアイベント“NL Doet Day”が毎年開催されます。京セラドキュメントソリューションズヨーロッパの社員6名は、2013年3月16日、オフィスに近い自然公園での環境保全活動に参加しました。

この公園は多くの鳥類の繁殖地となっています。参加者は、林の中に日光がより多く射し込むように丈の低い草を伐採したり、水辺の雑草を取り除いたり、懸命に作業を行い、地域社会に貢献した満足感を得ることができました。



NL Doet Dayの活動に参加した社員

京セラドキュメントソリューションズ 南アフリカ

黒人就業支援NGOを継続的に支援

NGO“ポッターズ・ハウス・トレーニング・センター”の運営支援を継続しています。この施設は、アパルトヘイトにより不利な立場におかれてきた人々に職業訓練を行い、オフィス機器の保守点検や修理などの基本的な教育訓練を実施して就業を支援しています。

同所で1年間のトレーニングを経て試験に合格した訓練生には当社南アフリカ本社が周辺国のディーラーへの就職斡旋を行うとともに、施設の運営費用の寄付を行っています。



職業訓練や就職斡旋などさまざまな形で支援

京セラドキュメントソリューションズ イギリス

少年サッカーチームを支援

本社があるレディング市や、サポートセンターがあるミルトン・キーンズ市の7歳から15歳までの青少年で構成されている8チームの少年サッカーチームを支援しています。少年サッカーチームの活動では、スポーツを通して身体の発育を促すだけでなく、メンバーの一員としてチームに貢献するというチームワークの大切さを学ぶことができます。京セラドキュメントソリューションズ イギリスからは、当社のロゴが入ったユニフォームを贈りました。



未来を夢みる子どもたちにロゴ入りユニフォームを寄贈

京セラドキュメントソリューションズ デベロップメント アメリカ

クリスマスプレゼントを贈る活動に参加

当社のアメリカにおける開発拠点、京セラドキュメントソリューションズ デベロップメント アメリカのサンフランシスコ事業所では、経済的に苦しい人たちにクリスマスプレゼントを贈るNPO“Family Giving Tree”の活動に参加しています。アメリカにおける販売会社、京セラドキュメントソリューションズアメリカの本社でも、クリスマスシーズンに合わせて従業員からおもちゃの寄付を募り、米国海兵隊予備役の方々が主催する“Toys for Tots”プログラムに提供しています。



Family Giving Treeによるクリスマス・プレゼント

アジア・オセアニアでの活動

京セラドキュメントテクノロジー 石龍工場

金沙湾公園でゴミ収集活動を実施

石龍工場は2013年5月より、社会貢献活動に参加するボランティアを募集しています。6月9日には、約60名が「地域清掃活動を実施し、石龍を美化する」活動に参加し、人口密集している金沙湾公園でゴミ収集を行いました。約14万m²の広大な公園で、目立たない所には多くの生活ゴミがありました。今回の活動はコミュニティの美化に貢献しただけではなく、石龍工場のイメージアップや社員教育にも貢献することができました。



一般市民にも環境保護の大切さをアピール

京セラドキュメントソリューションズ フィリピン

マングローブ植樹活動について

2012年10月21日、約50人のスタッフがボランティアで、セブ島南部ラブラブ市の海岸におけるマングローブの植樹活動に参加しました。この活動は、フィリピンの海岸の生態系の保護を推進するNPO、Coastal Conservation and Education Foundation (CCEF、沿岸保全教育財団) の主催で行われている活動です。当社もその主旨に賛同し、1,000株のマングローブの苗を購入し、植樹活動を行いました。当社は今後も、このような社会貢献活動に積極的に参加していきます。



マングローブの植樹に参加した社員と家族

京セラドキュメントソリューションズ タイランド

奨学金制度を運営するNPOを支援

「ダルニー奨学金」という奨学金制度を運営しているタイのNPO団体、「財団法人 地域開発教育基金」に、2008年から継続して毎年、12名分の奨学金を寄付しています。タイは近年、首都バンコクを中心に目覚ましい経済発展を遂げていますが、地方では、貧しさから進学することもできず、小学校を卒業すると働きに出る子ども達が大勢います。このNPOはその子ども達に奨学金を与え、中学校を卒業するまでの3年間就学できる支援をしています。



ダルニー奨学金証書

京セラドキュメントソリューションズ オーストラリア

「ビジネス・クリーンアップ・デイ」に参加

2013年2月26日、社員14名が「ビジネス・クリーンアップ・デイ」に参加しました。この取り組みは、クリーンアップ・オーストラリアという団体が主催して、年1回全土で行われる、企業主体のボランティア清掃活動です。当社は、このクリーンアップ・オーストラリアの企業パートナーとして、2000年から毎年社員が清掃活動に参加しています。今回もシドニー郊外のクリスティー公園内で自然道の周辺を清掃しました。当社はこれからも、環境への深い感謝の気持ちをこめて積極的に協力していきます。



ボランティアの清掃活動に参加した社員

WEBは
コチラ!

社会とともに

検索



社員とともに

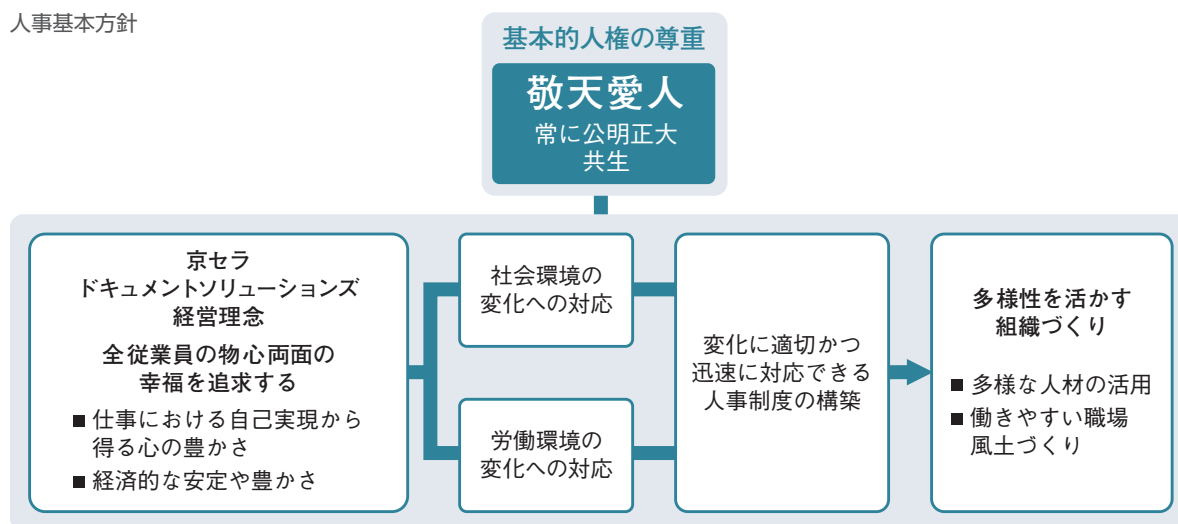
京セラドキュメントソリューションズは「全従業員の物心両面の幸福を追求すると同時に、人類、社会の進歩発展に貢献すること。」を経営理念として、社員が経済的な安定や豊かさを確立するだけでなく、仕事における自己実現によって生きがいと心の豊かさを得ることを目指しています。

… 人事の基本的な考え方

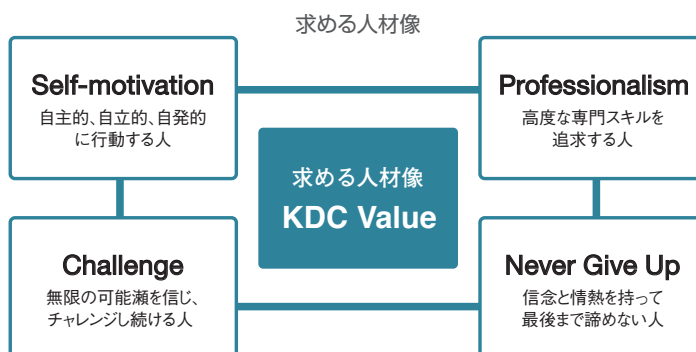
当社は経営理念を実現するために、次の3つを基本的な考え方として人事施策を展開しています。

1. 価値観の多様化、高齢化といった社会環境の変化への対応
2. 雇用の流動化や企業活動のグローバル化といった労働環境の変化への対応
3. それぞれの国の特性や生活文化を常に意識しながら、適切かつ迅速に対応することのできる人事制度の構築

人事基本方針



また、「Self-motivation」「Challenge」「Never Give Up」「Professionalism」という4つの要素から構成される京セラドキュメントソリューションズの求める人材像をベースに、人事諸制度の運用や人材育成の取り組みを展開しています。



障がい者の雇用を推進

当社では、障がいを持たれた方の新規採用と継続雇用に注力しています。一人ひとりの適性を考慮したうえでの職場配置や業務内容の配慮、産業医による健康面のサポートなど、ソフト面の充実にも重点をおいて、きめ細かく対応しており、すでに多くの社員が、それぞれの職場で能力を発揮し、会社の発展を通して社会に貢献しています。

このようなソフト面の対応にとどまらず、視覚障がい者の

サポートとして要所に点字プレートを設置、肢体不自由者の移動手段の補助として身体障がい者用エレベーターの設置と一部フロアのバリアフリー化、専用トイレの設置などを行いました。



障がい者専用トイレ

セクハラ・パワハラの防止

職場でのセクシャルハラスメント、パワーハラスメントは、社員の尊厳を不当に傷つける重大な人権侵害行為であり、社会的にも許されるものではありません。当社では、人権啓発活動の一環として、ハラスメントの禁止事項や定義を

明確にするとともに、全社員を対象にeラーニングなどによる教育を実施しています。また、事業所ごとに社員相談窓口を設置し、いつでも誰でも気兼ねなく相談できる体制を維持継続しています。

仕事と家庭を両立に向けて

社会人として働きがいのある人生を送るためには、家族を大切にし、仕事と家庭の両立をさせることが大変重要です。

当社は、全社員がいきいきと働き、有意義な社会人生活を送ることができるように、休暇制度を充実させています。

連続休暇や長期休暇制度

社員が計画的に有給休暇を取得できるようにするための9連続休暇を始め、勤続5年ごとの節目に3日間の有給休暇と会社休日を組み合わせて5連続休暇を取得するリフレッシュ休暇、ボランティア休暇などの長期休暇制度を導入しています。心身のリフレッシュや自己研鑽などに利用できる多目的休暇を

設けるなど、有給休暇の取得率を向上させる施策も実施しています。この結果、年々有給休暇の取得数が向上しています。総労働時間削減の取り組みにおいては、労働組合と長時間勤務抑制に関する協定書を締結し、労働時間の短縮に注力しています。

次世代育成支援の行動計画

社員が仕事と子育てを両立させることができ、全社員がいきいきと働くことのできる環境をつくることによって、社員が十分に能力を発揮できるよう、次世代育成支援対策として、2010年4月には、「次世代育成支援対策推進法に基づく行動計画」を策定し、各事業所・職場に応じた労働時間削減や休暇取得を推進しています。

次世代育成支援対策推進法に基づく行動計画

目標1

所定外労働時間を削減するため、ノー残業デーを推進

目標2

年次有給休暇の取得推進

育児休職制度や短時間勤務制度の充実

当社では社員の仕事と家庭の両立を支援するため、1992年に1歳未満の子どもを持つ社員を対象に育児休職制度を導入しました。2005年4月からは、有期雇用の社員もこの制度の対象に加え、取得期間についても従来の休職期間に加えて半年間の延長を可能としました。家族の介護にあたる社員には最大1年間の休業を認める介護休職制度を、2007年4月には妊娠中あるいは小学校3年生までの子どもを養育する社員に「短時間勤務制度」を導入しました。男性社員からも制度取得に関する問い合わせが徐々に増えています。今後、社員がより働きやすい職場環境づくりを目指して諸制度を改善していきます。

●● 社員教育の強化

当社は、経営の根幹である京セラフィロソフィを正しく継承することが重要だと考え、その本質、内容、価値観を正しく理解する「フィロソフィ教育」に力を入れています。同時に、マネジメント教育や技術・技能教育などを京セラ株式会社と連携しながら実施することで、当社の発展に資する人材を育成しています。

京セラドキュメントソリューションズの教育理念

京セラフィロソフィを体得し、真摯な努力と弛まぬ創意工夫により、京セラドキュメントソリューションズのグローバルな発展と、全従業員の幸福を追求すると同時に、人類、社会の進歩発展に貢献する有為な人材を育成する。

フィロソフィ教育の徹底

当社はフィロソフィ研修を常実施し、理念の共有、浸透に向け取り組んでいます。京セラフィロソフィを正しく理解し、正しい考え方で業務を実践することで、やりがいや

働きがい生まれ、一人ひとりの人生を素晴らしいものとすると考えています。

2012年度の教育実績

京セラフィロソフィの浸透を図るため、役員・社員を対象にフィロソフィ教育を定期的実施しています。2012年度は、2011年に発刊された「京セラフィロソフィ手帳Ⅱ」の研修を役員・幹部社員延べ165名が受講しました。今後は中堅・一般社員に拡大します。また、一般社員向けの「フィロソフィ研修I理解促進コース」では、2012年

度は延べ818名の社員が受講しました。海外社員は現地語の京セラフィロソフィ手帳を輪読しています。このほか、新入社員の基礎教育と技術研修、一般社員の技術・技能教育、海外販社経営幹部社員向けのフィロソフィをベースとしたGM(General Manager)セミナー(2012年度は35社58名が対象)などを実施しています。

●● 福利厚生への取り組み

社員の多様化したニーズに対応しながら、心身の健康増進、活力の回復、生活の安定、心のゆとりの向上を図るために、

福利厚生の充実を図っています。

レクリエーション活動の推進

社員間のコミュニケーションの充実や、社員の健康促進、近隣の方々との交流を目的として、運動会やスポーツ大会や納涼祭、クラブ活動などのレクリエーション活動を活発に行っています。



運動会やスポーツ大会



近隣の皆様や社員ご家族をお招きする納涼祭

OB会

かつての同僚との交流を通じて、精神的な支えと定年後の生きがいづくりの一助としてもらうOB会に、246名の会員が在籍しています(2013年4月現在)。同会では全国の会員が集う総会を年1回開催し、懇親の場としているほか、日本全国で各支部に分かれ、気の合う仲間同士でハイキング・ゴルフ・囲碁将棋などのクラブ活動を実施しています。



OB会の総会

● 労働安全衛生の取り組み

京セラドキュメントソリューションズグループは、事故災害のない、安全で安心して働ける職場環境づくりを目指して、労働安全衛生方針のもと、総合的な取り組みを行い、積極的かつ継続的に安全衛生活動を展開しています。

「全従業員の物心両面の幸福を追求すると同時に、人類、社会の進歩発展に貢献すること」という経営理念を実現

するため、社員が健康で安心して働けることを事業活動の大前提としています。安全第一を旨とする企業風土の育成を目指して労働安全衛生方針を定め、全員参加による労働安全衛生活動を実践し、社員の負傷、および疾病の予防を推進しています。

当社グループ労働安全衛生目標と2012年度の取り組み

労働安全衛生方針に基づき、2012年度は、次の目標を掲げて取り組んだ結果、国内5事業所における2012年度の「労働安全衛生推進計画」はすべて完了しました。

労働安全衛生目標

- | | |
|------------------|------------|
| 1. 労働災害の撲滅 | 2. 火災事故の防止 |
| 3. 従業員の健康管理対策の推進 | |

リスク改善計画2012年度の取り組み

2012年度は、総数2,053件にのぼるリスクを抽出し、そのうち205件のリスクを「受容できないリスク」として登録して、改善の行動計画を実行に移しました。「受容できないリスク」として登録された作業については、抜本的な改善計画に取り組み、すべての計画について実施を完了しました。2012年度は、自然災害からもリスクを抽出して、改善策を実施しました。

パーフェクト5S推進活動

「整理・整頓・清掃・清潔・躰」について『完璧な5S』を実施することにより、品質、生産性の向上および生産設備の稼働率の向上を図り、安全で安心して働ける快適な職場環境を形成することを目的としています。

国内事業所および生産工場に対する環境安全5Sパトロールは年2回、海外の生産工場および物流拠点に対する環境安全5Sパトロールは年1回環境安全統括者によるパトロールを実施しています。

防火・防災活動

当社グループ全体で、防火防災管理の強化に取り組んでいます。各事業所では、防災管理組織の活動を活性化させて、防火防災教育や、自衛消防組織の訓練を行い、社員の防災意識の向上に

努めています。当社では、災害時における社員の人命を確保することを目的とした活動を進めており、自衛消防隊メンバーの知識と経験の向上、自立的行動の実践を目指しています。

生産拠点での取り組み

玉城工場のある三重県は、南海トラフの巨大地震発生予想地域であり、また、枚方工場も南海トラフの巨大地震および生駒断層帯地震が想定されています。こうした事態に備え、当社の生産拠点では、計画的に防火防災訓練を実施しています。



玉城工場の訓練



枚方工場の訓練



WEBは
コチラ!

社員とともに

検索



京セラドキュメントソリューションズ株式会社

〒540-8585 大阪市中央区玉造1丁目2番28号

TEL:06-6764-3555（大代表）

お問合せ先：CSR本部

<http://www.kyoceradocumentsolutions.co.jp>

記載内容は2013年11月現在のものです。

© 2013 KYOCERA Document Solutions Inc.